

WeNET 県温暖化防止センターに 9月1日指定へ・10日初のイベント

NPOわかやま環境ネットワーク(=WeNET)は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき木村良樹和歌山県知事から、9月1日付で和歌山県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受けられることになりました。指定期間は2009年3月31日までで、この間、WeNETが同センターとしての業務を遂行することになります。

- ★ センター指定の見通しが立ったことを受けWeNETは、以前から環境省きんぎ環境館と共催で企画していたタウンミーティング(下記)の内容に、急きょセンター開業の報告を加えることとしました。この催しの詳しい企画内容は、本紙に折り込みの案内チラシをご参照ください。

ごあいさつ 代表理事 重栖 隆

地球温暖化の防止など、「環境の世紀」、人類に課せられた巨大で困難な仕事をやり遂げ私たちの子孫に緑の地球を引き継いでゆくには、いま、この世界を構成するすべての人々が知恵をだしあい、力をあわせなくてはなりません。都道府県地球温暖化防止活動推進センターこそ、そうした協働の地域における推進拠点であるわけですが、このたび、和歌山県では「わかやま環境ネットワーク」が、その大任を担う見込みとなりました。

課せられた任務の大きさに、身の引き締まる思いですが、広範な県民の皆さんのご理解を得て会員一同、誠心誠意、社会的使命の達成に全力を尽くす決意ですので、ご協力方、よろしくお申し上げます。



7月23・24日開催の「よさこい祭り」でWeNETは「3R大作戦」を果敢に展開。(6面に記事)

タウンミーティング 2005 in わかやま

日時：2005年9月10日(土) 14:00～ (13:30開場)

場所：和歌山地域地場産業振興センター

内容：報告とミーティング(会場討議)

報告Ⅱ 「脱温暖化社会作りへの課題」

報告Ⅰ 「地球温暖化の現状と対策」

(財)ひょうご環境創造協会

NPO地球環境と大気汚染を考える全国市民会議

(=兵庫県地球温暖化防止活動推進センター)

専務理事 早川光俊さん

環境創造部長 菊井順一さん

参加費： 無 料

主 催： きんぎ環境館 共 催： NPOわかやま環境ネットワーク

わかやま環境ネットワーク紹介

wakayama environmentalists network

NPO わかやま環境ネットワークは「和歌山環境フォーラム2003/2005」を開催した実行委員を中心に、2005年7月5日、設立されました。

その目的は地球温暖化などの環境問題に取り組む住民（子供を含む）や NPO、事業者、公共団体、学校などが相互理解を深めること、また協働する取り組みを企画・推進することにより、持続可能な循環型地域社会の形成を目指しています。このたび、和歌山県地球温暖化防止活動推進センターに指定されたことを受けてさらに活動の場を拡げ、力強く邁進したいと考えています。

◆ 活動

わかやま環境ネットワークは、①情報の共有、相互理解や協力の促進など、環境問題に取り組む人々をつなぐ要の役割を果たすこと、②持続可能な地域社会作りに向けて、市民やNPO、企業、行政などによる協働事業を企画実行すること、③県知事指定の和歌山県地球温暖化防止活動推進センターとして、県内の地球温暖化防止活動の推進拠点となること、を目的とするNPOです。

実際の活動は、年1回の総会や理事会で方向を決め、運営委員会や事務局で具体化し、運営や系統的な取り組み課題ごとに部会、また当面の取り組み企画ごとにプロジェクトチームを作って取り組んでいます。これまでにスタートした部会は、会内外の連絡や啓発・普及に責任を負う「広報部会」、環境教育など子ども向けの取り組みを追求する「子どもの未来研究会」、温暖化防止活動推進員の皆さんを支援する部会（名称未定）など。またこれまでに取り組まれたプロジェクトは、ゴミの減量と分別を通じ環境意識を啓発する「よさこい3R企画」（終了）、農作業体験を通じ現代の農業が抱える問題を学ぶ「消費者参加型米作り企画」（続行中）、「省エネルギー導入企画」（着手段階）などで、今後も、会員の希望や地域の要請を受け、創意的で楽しい活動を展開してゆく予定です。どの企画でも、自由にご参加いただけますので、関心のある方は、ぜひ事務局にご連絡ください。

◆ 温暖化防止県センターとは？

1999年4月8日に施行された「地球温暖化対策の推進に関する法律」により、全国地球温暖化防止活動推進センター（略して全国センター）と都道府県地球温暖化防止活動推進センター（略して都道府県センター）が設置されることになり、同年11月に全国センター（東京）が設置されました。

その後、各道府県で次々とセンターが指定され、現在38の都道府県センターが設置されています。

そして今回、和歌山県センターとして『わかやま環境ネ

ットワーク』が9月1日付で県知事より指定を受け、業務を開始する運びとなりました。その目的は、地球温暖化対策に関する普及・啓発を行うこと等により、地球温暖化防止に寄与する活動の推進を図る事です。主な業務は「啓発・広報活動」「活動支援」「照会・相談活動」「調査・研究活動」「情報提供活動」などです。

◆ 今後の取り組み

わかやま環境ネットワークは、当面の企画として「タウンミーティング 2005in わかやま」（1面参照）に取り組むほか、今年度中に、田辺市と橋本市で地球温暖化に関するイベントの開催、地球温暖化防止活動推進員を養成する講座の開催、クーラーなど電化製品につける省エネラベルを県内に導入するプロジェクトに取り組めます。また、「子どもたち向けの環境企画」や中小企業向けの環境マネジメントシステム「EA21の導入普及企画」、「自然エネルギーの導入普及企画」など、温暖化防止を中心に環境問題に関する様々な取り組みを、県内各地の参加団体や個人、行政と協働しながら、推進してゆく予定です。さらに、地域社会に働きかける会の力量を高めるため、会員拡大も積極的に推し進めてまいりますので、関心のある方に、ぜひ広くご加入をおすすめください。

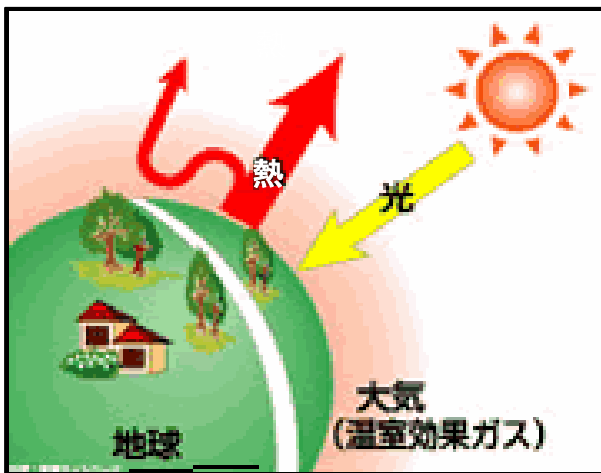
◆ 設立当初の役員

代表理事	重柄 隆	NPO 和歌山有機認証協会
副代表理事	玉井 済夫	(財)天神崎の自然を大切にす会
同	堰本 信子	和歌山市婦人団体連絡協議会
理事	中岡 準	はしもと里山保全アクションチーム
同	古守 一晶	NPO 花つぼみ
同	小野 正治	熊野環境会議
同	石橋 幸四郎	和歌山県中小企業家同友会
同	園井 信雅	紀州大地の会
同	前岡 正男	わかやま環境ネットワーク
監事	坂下 睦子	わかやま地球村
監事	前岡 秀幸	わかやま環境ネットワーク

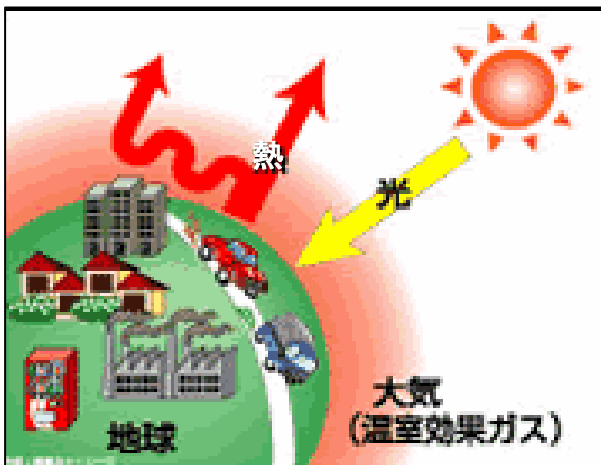
◆ 地球温暖化とは？

地球は太陽からの熱で温められて、生命におだやかな気候や環境を保っています。これは、大気中にある二酸化炭素などの温室効果ガスが、太陽からの熱が地球の外に出てしまうのをちょうど良い程度に防いでくれている結果なのです。しかし温室効果ガスが増えすぎると、今度は太陽によって温められた熱が大気の外に出ていきにくくなり、地球はちょうど「毛布を何枚もかけたような状態」になって次第に熱くなってゆきます。これが地球温暖化です。

人類が今のスピードで二酸化炭素の排出を増やし続けると、百年後には地球全体の平均気温が1.8度から5.8度くらい上がってしまうといわれています。



適度な温室効果



温室効果ガスが濃い場合

気温があがるとどうなるの？

南極や北極の氷が溶け始めています。またヒマラヤやアルプスの山々を覆っている雪や氷河も溶け始めています。

この状態が続けば、気温上昇による海水の膨張ともあいまって、海面が0.55～1mも上昇すると言われていています。

南太平洋の島々など低い土地は海に沈み、地球全体の気候も変わってしまいます。さらに、砂漠化、生物種の絶滅や食料危機など、大変な事が連鎖的に引き起こされます。

◆ 温暖化の原因は？

ヨーロッパで200年くらい前に産業革命がおこり、たくさんの工場でいろいろな製品が作られるようになりました。その後、産業革命はアメリカや日本にも広まります。これらの工場の動力源は石炭でした。その石炭をたくさん燃やしたせいで大気中の二酸化炭素は増え始めたのです。

そして今、私たちの生活に欠かせない電気は火力発電所などで石油や石炭を燃やして作られています。自動車も石油を燃やして走っています。つまり、電気を使えば使うほど、車が走れば走るほど大気中の二酸化炭素は増え、地球の温暖化が促進されることになるのです。

私たちの暮らしが電気や自動車のおかげで便利に豊かになるにつれ、大気中の二酸化炭素は増えてきました。日本では現在、家庭が14%、工場などが40%、お店・オフィスが17%、自動車が20%の割合で二酸化炭素を出しています。地球温暖化を防ぐためには、なんとかして、これを減らさなくてはなりません。

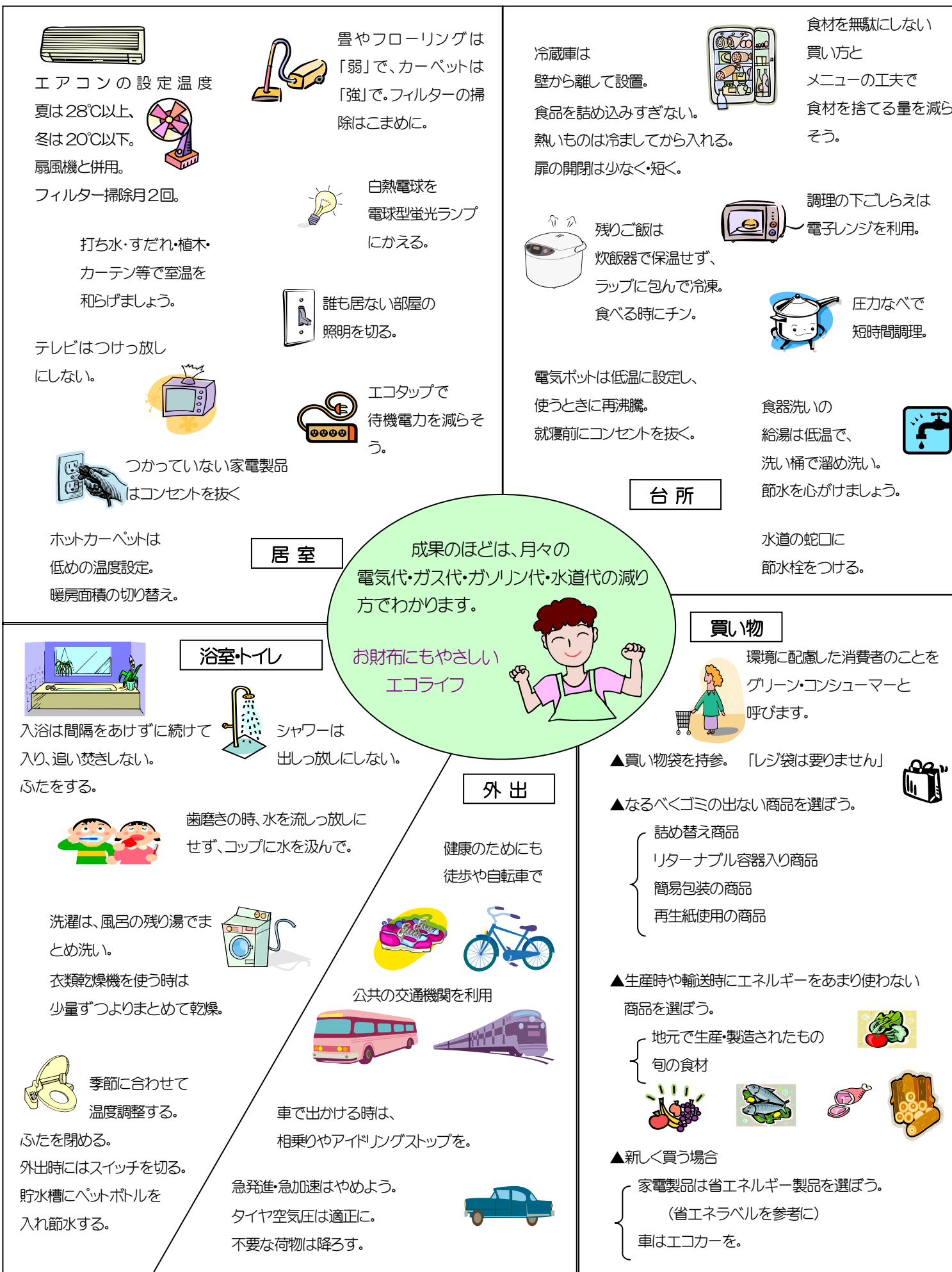
◆ 京都議定書とは？

1997年12月に京都で開催された気候変動枠組条約第3回締約国会議（略称COP3、京都会議）では、先進国を中心に温室効果ガス排出の削減目標を定めた京都議定書が採択されました。

京都議定書は、地球温暖化に対し人類が中長期的に取り組む道筋の第一歩を定めたものとして高く評価できます。しかし、これで温暖化問題がすべて解決されるわけではありません。50年、100年といった長期的で全世界的な取り組みなしに解決はできないのです。また最大の二酸化炭素排出国である米国が京都議定書に背を向けている問題や、これから経済成長を始める国々への対策など、これらの課題を解決することも必要です。

日本の削減目標は6%、私たち一人ひとりができることは何でしょうか？ エアコンを少し控えること、水や電気を節約すること… 身近にできるちょっとしたこと（4ページ）から、温暖化防止の実践を始めませんか。

CO₂を減らす暮らし方、あなたも始めてみませんか



クローズアップ！ わたしたちの活動 (1)

このコーナーはNPOわかやま環境ネットワークに参加する団体や企業、個人の活動と今後の展望を紹介します。

(財) 天神崎の自然を大切にする会

専務理事 玉井 澄 夫

「天神崎」 ～現在の様子とこれから～

1974年(昭和49年)、天神崎の丘陵に別荘が建設される計画を知った市民は、「天神崎の自然を大切にする会」を結成し、この保全運動に取り組んだ。

運動は募金による土地の買い取り(ナショナル・トラスト運動)ということになり、当初はいくつもの難題を抱えながらのスタートであった。しかし、年月の経過と共に、全



湿地に咲く水オオバコの花

国各地からたくさん
の寄金が届けられ、
1985年(昭和60年)
に別荘予定地の取得が
終わり、そして、その
後も天神崎丘陵地全
体の保全をめざして
募金活動を続け、

土地取得による保全地の拡大を進めている。現在では、天神崎丘陵地(180,000㎡)の内、本会と田辺市とでその約40%が取得地(保全地)となった。

保全地の自然を維持するため、田辺市も湿地の再生に力を入れているが、現在、この湿地には、水生植物・水生昆虫が増えた。また、田辺市や国土交通省(和歌山港湾事務所)などからの支援を受け、多くのダイバーの協力を得て、田辺湾内の海底の清掃活動をしたり、海底の写真を撮った。そして、この成果は写真展として市民に公開した。



海底から引き上げられる自転車

天神崎の見学や環境学習のために、各地の学校や団体など多くの人々が訪れるが、その案内や自然解説なども行い、この地の自然の特徴や保全運動の経過などの説明も続けている。訪れる子どもたち

は、天神崎の多様な生物に触れ大きな歓声をあげながら、自然に親しみ、

学んでいるのである。本会が31年前に唱えた「未来の子どもたちのために」という願いが今こうして実現していることが、これまでの苦しい運動の大きな成果である。



磯で自然観察をする子どもたち



山林火災跡地で木を植える。

昨年(2004年2月)、本会の取得地である山林で火災(2,000㎡、被害250株)がおきたが、その焼け跡

地に市内の小・中学校の子どもたちが植樹をした。

思いがけない子どもたちの活動には胸が熱くなった。子どもたちは、今の自然を楽しむだけでなく、さらに次の世代にこの自然を伝えようという願いを抱いているのである。この子どもたちの思いこそ、この運動の継続に大きな力となるであろう。

本会は募金により土地の取得をすすめています。それと共に、各種の事業(自然観察教室・子ども絵画展・海底清掃など)にも取り組んでいます。そのために必要な資金は会員の会費を当てていますが、その会員が近年は減少の一途をたどっていて、事業資金が不足するだけでなく、日常的な運営が困難な状況にあります。

どうか皆さん会員になっていただき、本会の運営を支えていただければ大変ありがたいです。

連絡先

〒646-0050 和歌山県田辺市天神崎5-17

(財) 天神崎の自然を大切にする会

(電話 0739-25-5353・FAX 0739-25-5385)

WeNET活動レポート

◆ 「減らすんや！まわすんや！2005 よさこい3 R大作戦」 スタッフの熱意でゴミ減量！

7月23・24日に和歌山市で開催された第2回よさこい紀州祭りでは中村美由紀さんら温暖化防止推進員（紀州推進員の会）を中心に47人のボランティアが、3R（リデュース、リユース、リサイクル）をテーマとして大作戦を展開した。京都の環境団体よりレンタルの食器洗浄機とリユース食器を借り、屋台での使い捨て食器を減らそうというもの。呼びかけには



ゴミの分別指導を行うスタッフ

びかけには6店舗が賛同し、2日間で1,382枚の食器やカップが再利用された。汚れたお皿を回収、洗浄する作業は暑い中で大変だったにもかかわらずスタッフは初めての試みに意気揚揚（表紙写真）。またゴミを捨てにくる人への分別指導も忙しく、空き缶60袋、ビン7袋、プラスチック167袋、ペットボトル62袋を回収した。中村さんは「リサイクルではなくリデュース・リユースを知ってもらいたい機会となった。まだまだ使い捨て食器は多いが、行動することが第一」と感想を語った。

◆ 食農部会「消費者参加型米づくり企画」

食の安全と休耕田の復活を賭けて！

有機農業を実践する紀州大地の会メンバーを中心とする食農部会が、消費者と農家が共に米作りを体験し、併せて休耕田となった土地を復活させようと「消費者参加型米づくり企画」を始めている。和歌山市安原の田んぼでは6月12日に田植えが行われ、12軒の農家と消費者8人が初めての試みに

に参加した。また7月10日には草取り体験と生き物観察会を開催、和歌山大学のY教授が農業を取り巻く環境などについて



ポット苗による田植え(和歌山市安原)

参加者と意見交換を行った。企画者の園井信雅さんは「これからの新しい農業の形として定着していけば、食物の安全性確保や増え続ける休耕田も解消される。その実験として行政も大いに期待している。ぜひとも成功に導きたい」と意気込みを語った。食農部会では一般の人にも水田体験や観察に気軽に参加してほしいとして、今後もさらに参加者を募っている。稲の刈り取りは9月16日頃の予定。

◆ お知らせ

*広報部はホームページ (<http://www.vaw.ne.jp/wenet/>) に「会員ホームページへのリンク」を設けています。会員でホームページをお持ちの方は登録をお願いいたします。お申し込みはホームページの「ご意見・問い合わせ」まで。

*事務局会議、運営委員会にご参加ください。運営会員、会員を問わずに参加できます。会員の貴重なご意見を反映したいと考えています

*地球温暖化防止推進員養成講座の開催を秋以降に予定しています。受講希望の方は事務局までご連絡ください

*食農部会の「消費者参加型米づくり企画」にご参加ください。どなたでもご参加いただけます。次回の体験は、9月16・17日頃の稲刈りです。詳細は当ホームページをご覧ください。

NPOわかやま環境ネットワーク通信「ういねっと」
創刊号（2005年8月発行）

発行 NPO 法人わかやま環境ネットワーク
 代表理事 重栖 隆 事務局長 前岡正男
 編集 吉岡恭子 中西茂美 堀 禎宏 松下靖彦
 〒641-0051 和歌山市西高松1-6-4
 Tel&fax 073-421-6545
 ホームページ <http://www.vaw.ne.jp/wenet/>

◎ 活動に参加して下さる会員を募集しています！

年会費	運営会員（個人・NPO・学校）	3,000円
	（事業者・公共団体）	—□ 10,000円
会 員	（個人・NPO・学校）	3,000円
	（事業者・公共団体）	—□ 10,000円

事務局地図